

活動助成（2009年度募集）活動実績報告書

団体名	「空色の会」～JR 福知山線事故・負傷者と家族等の会～
活動テーマ	「4・25 あの日を忘れない」 ～被害者の真の回復と、事故の風化防止、安心して安全な公共交通機関の実現を願って～

「空色の葉（しおり）」



「メモリアルウォーク」



「勉強会・見学会」



「座談会」



①事故の風化防止と、安全で安心な公共交通機関の実現を願っての活動を考える

②公共交通機関の大規模事故の際の被害者支援（サポート）・援助のあり方を検討する

- 「空色の葉（しおり）」：安全で安心な公共交通機関の実現を願って書店や駅近辺で「葉」を配布する活動を継続し、2010年は6,000枚制作して4月に配布した。メッセージの入った「葉」を手から手へと配ることで、福知山線列車事故が当事者だけの問題ではないことや、内在する社会的課題を、さりげない形で多くの方々に伝えることができた。
- 「メモリアルウォーク」：事故沿線（事故現場・献花台を含む）を一般参加者も一緒に歩く活動を2010/4/24に実施した。活動が開放的であることから、山歩きの会の方々などの参加もあり、事故への社会的関心の裾野を広げることができた。また、今もって電車に「乗る」ことが困難な被害者にとっては、沿線を「歩く」ことが心的外傷の軽減の一助となり回復に寄与できた。
- 「勉強会・見学会」：当会で持っている課題をより深めて学ぶ勉強会（3回）や見学・視察を実施した。公共交通機関の大規模事故・事件の被害者やそのサポート組織とのネットワークの強化ができた。
- 「座談会」：公共交通機関における大規模事故の際の被害者支援については、国レベルでの制度設計が必要で、その実現には法整備なども必要とされるが、一方で既存の民間活動や組織を活かしていくことも重要である。2011/1/29の座談会ではノンフィクション作家の柳田邦男先生もお迎えして、「被害者の視点」から「被害者サポート」の必要性や重要性を考える場を持った。結果、各活動主体間の連携や、それぞれの活動の社会的認知を促進し、今後のより大きな動きへとつなげる機会として実施することができた。